北中理事長メッセージ

ササカワ・アフリカ財団（SAA）は、1986 年以来、アフリカの農業変革という壮大な目標を掲げ、農家とともに歩んでまいりました。この度、我々の長年にわたる経験を皆様と広く共有させていただきたく、E-ニュースレターの発行を開始いたします。創刊号では、SAA の新 5 か年戦略（2021-2025）3 本柱の一つである「栄養に配慮した農業（NSA: Nutrition-sensitive Agriculture）」に焦点を当て、現場の様子をお届けいたします。

SAA は、栄養失調の改善や食の安全性向上など、長年、農業を通じた栄養改善に取り組んでまいりましたが、昨年、途上国の栄養改善支援のパイオニアである HarvestPlus とパートナーシップを締結するに至りました。SAA と HarvestPlus は、12 月の東京栄養サミット 2021 において、アフリカにおける生物学的栄養強化作物（Biofortified Crops）の普及拡大を目指し、公式サイドイベントを共同開催しています。こうした取り組みは、アフリカで「栄養に配慮した農業」を普及するという SAA の目標を推進し、小規模農家に対する支援を更に強固にする活動の一環です。今後も、農業バリューチェーンに沿った能力開発と普及システムの強化を通じて、小規模農家の農業生産性と生計向上を目指していきます。

2022 年 2 月、ウガンダの農業・畜産・水産副大臣であるフレッド・キャクラガ・ブウィノ氏から、SAA の戦略は、持続可能な農村開発のための政府の戦略に合致しているという高い評価を頂きました。他の活動国の農業省からも、同様の前向きな評価を頂いており、引き続き政府機関をはじめ多様なパートナーと緊密に連携し、活動していく所存です。

理事長　北中　真人

現地からの声

パーマガーデンがエチオピア農家の豊かな栄養と収入を実現

2020 年以降、SAA はエチオピアでパーマガーデン（Permagardening）の普及活動を行い、オロミア州アナソラ群セボバ・ウェッシャービ村の 84 世帯を中心に多くの世帯でその手法が導入されています。パーマガーデンは、小規模な家庭菜園において、持続可能な農法で収穫量を最大限に高めるバイオインテンシブ農法です。有機農法の要素を取り入れ、生物多様性を高めることで、生産性の高い菜園を構築します。2021 年、SAA はセボバ・ウェッシャービ村、28 世帯（男 4 人・女 24 人）の農家を対象に導入研修を実施し、パーマガーデンの手法が、どのように節水、土壌肥沃度の向上、作物の発育促進、そして、収穫量の増加に貢献するか実演しました。また、バイオマス量が多く、安定した収穫量が見込めるスイスチャードなどの新しい野菜も紹介されました。

研修を受けた農家は、自宅に戻り近隣農家にも栽培方法を共有し、その結果計 51 世帯の家庭が、自宅の庭にパーマガーデンを設立しました。そのうち 35 世帯は、これまでマーケットで買っていた野菜を安定的に自前で作ることができるようになり、週 4～6 米ドルを節約できるようになりました。パーマガーデンの取り組みは、自宅の遊休地を新鮮で健康的な野菜を生産する農地に変え、家庭の栄養状態を

改善するとともに、農家が追加収入を得ることを可能にします。パーマガーデンの余剰野菜を販売することにより、5 カ月間で最大 100 米ドルの新たな収入を得た農家もあります。

ウガンダのムベンデ地区で生物学的栄養強化作物（BIOFORTIFIED CROP）を通じた栄養改善効果が実感される

ビタミン A および鉄欠乏症の改善を目指し、SAA ウガンダ事務所ではムベンデ地区ルテテ村の農家を対象に、生物学的栄養強化作物（Biofortified Crop）である鉄分強化豆、ビタミン A 強化オレンジスイートポテトなどの栽培を導入しています。SAA は、途上国の栄養改善支援のパイオニアである HarvestPlus と協働し、ンコバザンボゴ農家グループのリーダーを対象に、栄養を強化した豆やサツマイモの栽培、加工、保存方法に関する研修を実施。生物学的栄養強化作物は、特に子どもや再生産年齢（女性が妊娠・出産できる年齢期間）にある女性に推奨されており、子どもの成長や発達に焦点を当てた献立なども教えられました。ンコバザンボゴ農家グループの女性リーダーであるアイシャ・ナキブレさんは、「４年前には村で普通に見られた栄養失調の子どもを、最近はめったに見かけることがない」とその効果を実感しています。

ナキブレさんは、生物学的栄養強化豆はとても美味しい上に、調理時間も短く、収益性の高い栽培が可能であると話します。「昨シーズンは、11 袋強の豆（1 袋 100kg、合計 1,100kg）を収穫し、9 袋は販売（約 416 米ドル）、2 袋は自家消費用に利用し、そのうち 50kg は翌シーズンの植え付け用に残しました」と彼女は言います。

世界栄養報告（2021 年）によると、ウガンダの 5 歳未満の子どもの 28.9％が発育不良（Stunting）、3.5％が低体重（Wasting）、再生産年齢（15～49 歳）女性の 32.8％が貧血であるという結果が出ています。また、ウガンダの就学前児童の 28％がビタミン A 欠乏症であることも報告されています。ウガンダの栄養失調の克服を目指し、SAA は今後も「栄養に配慮した農業」を戦略的に推進していきます。

栄養に配慮した農業～進行中のプログラム

ナイジェリアの栄養啓発プログラムにより家庭の食事が改善

2021 年 9～10 月、SAA はナイジェリアのナサラワ、ジガワ、ゴンベ、カノ各州の農業普及員 125 人（地域保健普及員 8 人を含む）を対象に、高栄養作物を用いたバランスの良い食事づくりや食の多様性向上に関する研修を実施しました。研修を終えた農業普及員は、各担当地域の 8,635 人の農家（女性 1,707 人）に研修で得た知識を普及しました。

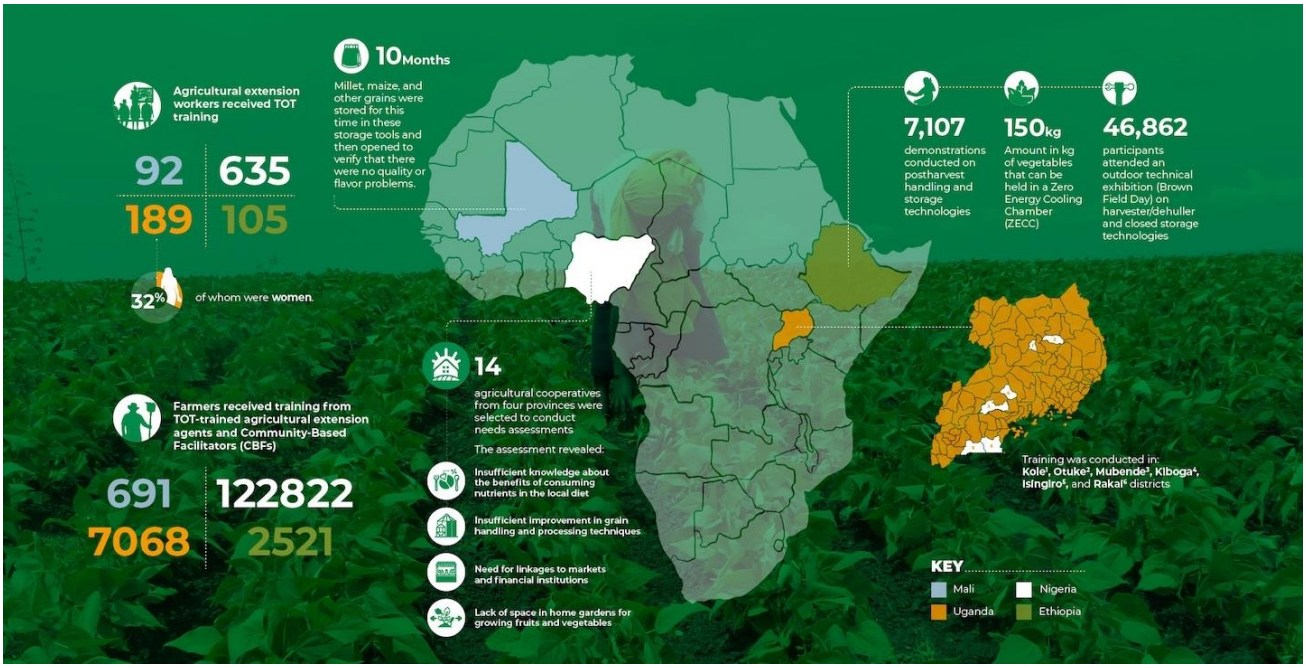
このプログラムは、SAA の戦略「栄養に配慮した農業」の一環として、地元の食材を用いたバランスの良い食生活を促進し、世帯の食事多様性スコア（HDDS: Household Dietary Diversity Score）を向上させ、5 歳未満の子どもの発育阻害率を減少させることを目的としています。栄養啓発プログラムでは、多様な作物を地産地消することを促すとともに、衛生面に配慮することや適度な運動を取り入れることなど、健康的な生活を送る上で欠かせない生活習慣の総合的な指導が行われました。また、子どもの栄養不良の軽減にも重点を置き、乳幼児の授乳や補完食の重要性についても言及しています。

マリの農家、コスト削減につながる密閉保存のメリットを学ぶ

SAA は、農作物を密閉した状態で保存するメリットを農家に理解してもらうため、マリの農村で実証デモンストレーションを行いました。2021 年 3 月 5 日～12 月 8 日までの 9 カ月間、ドゥンバジラ村の農家の家で、トウモロコシとソルガムを同量ずつ、３つの異なる密閉容器（プラスチックサイロ・PICS バッグ・再生プラスチックコンテナ）に入れて保管しました。また、比較のため、一般的なポリプロピレン袋に入れたトウモロコシとソルガムも準備しました。実験期間終了後、農家 177 人（女性 65 人）と農業普及員 2 人の計 179 人の参加者が、それぞれの容器の作物を目視で確認、品質評価を行いました。

密閉容器で保存された穀物は、害虫の被害や、色や匂いの変化は見られませんでした。つまりこれらの保存容器を活用することで、収穫物を家庭での消費や種子として適した品質を維持でき、販売用としてもアフリカ価格で取引されえるのです。一方、一般的なポリプロピレン袋に入れた穀物は、害虫が発生し品質の劣化が確認されました。密閉保存しない場合には、害虫被害を防ぐため、農薬や化学薬品の使用が必要となりますが、密閉保存した場合には、そういった費用も節約することができ、かつ安全に消費できることが示されました。

データでみる栄養に配慮した農業



栄養に配慮した農業～パートナーシップの構築

JICA と共同でナイジェリアでのビタミン A 強化トウモロコシの普及に貢献

2022 年 2 月 1・2 日、NEPAD（アフリカ開発のための新パートナーシップ）と JICA（国際協力機構）は、共同議長を務める「食と栄養のアフリカ・イニシアチブ（IFNA: Initiative for Food and Nutrition Security in Africa）」の一環として、ナイジェリア・ニジェール州の農業普及員と農業に携わる女性のためのワークショップを開催。同ワークショップでは、5 歳未満の子ども、出産適齢期の女性、授乳期の母親の栄養状態を改善するため、ビタミン A 強化トウモロコシの有用性が紹介されました。

SAA は、JICA のメインパートナーとして参加し、ビタミン A 強化トウモロコシに係る農法、ポストハーベスト、貯蔵管理に関する知見を共有しました。ワークショップは、講義のみならず、デモンストレーションやグループワークが組み合わせて行われ、今後、ワークショップの受講生が、迅速に知見を普及していくことが期待されています。同ワークショップは、ナイジェリアの栄養状態を改善するという SAA の目標に沿った取り組みです。

各国で年次ステークホルダー会議を開催、新 5 か年戦略の方向性を共有

2022 年 1 月～2 月にかけて、SAA は重点 4 か国において、以下のテーマのもと、年次ステークホルダー会議を開催しました。

・エチオピア：「エチオピアにおける環境、経済収益性、社会的公正のための環境再生型農業」

・ウガンダ：「改良技術と実践による強靭で持続可能な食料システムの構築～ウガンダの小規模農家の食料、栄養、収入の改善を目指して～」

・マリ：「家族経営農家のレジリエンス～農産物の生産、加工、マーケティング、消費における課題と展望～」

・ナイジェリア：「環境再生型農業、栄養に配慮した農業、市場志向型農業の推進を通じたナイジェリアにおける食料システムと生計の向上」

同会合には、農業省、研究機関、大学、民間企業など、農業バリューチェーンの様々な関係者が参加しました。SAA は、2021 年の主な活動や成果を共有し、新 5 か年戦略（2021-2025）とそれに基づく 2022 年の活動計画を発表しました。同会合を通じて、新たなコミットメントが策定され、本年の活動イニシ

アティブを強化されることが期待されます。また、会合参加者と情報交換の好機となり、最新の農業研究やイノベーションに関する知見を収集することができました。

国際食糧政策研究所（IFPRI）と MOU を締結

2022 年 1 月 5 日、SAA は国際食糧政策研究所（IFPRI）とアフリカにおける農業普及サービスの強化と食料・栄養安全保障の課題に共同で取り組むため、覚書を締結しました。今後、主に以下の領域で協力関係を深めていく予定です。

・農業普及サービスとキャパシティビルディングに関する知識創出、パッケージ化、普及

・農業普及サービスの効果的な活用を通じた、環境再生型農業、栄養に配慮した農業、気候変動対応型農業、市場志向型農業の推進

・アフリカの農業変容を実現するための農業普及サービスに関する研究やモデルの開発と実践

・アフリカにおける革新的な技術や支援の成功例や教訓の抽出と分析

・農業/食糧政策の分析と提言

・今年チュニジアで開催予定の第 8 回アフリカ開発会議（TICAD8）への共同参加

SAA、エチオピア農業省らと持続的な環境再生型農業推進のための連合体を発足

2022 年 3 月 5 日、SAA は、エチオピアの首都アディスアベバで、持続可能な環境再生型農業の推進を目的とした連合体（Action Coalitions）の発足を公表しました。同連合体は、SAA、エチオピア農業省、エチオピア農業変革庁（ATA: Agricultural Transformation Agency）、エチオピア農業研究機構（EIAR: Ethiopian Institute of Agricultural Research）、FOLU（Food and Land Use Coalition）が共同で設立。エチオピアの農業を自給自足から商業的農業に変革するにあたり、環境再生型農業を推進し、環境・社会・経済の持続可能性を実現するためのロードマップを策定することを目的としています。「農業を再生し、持続可能に（Regenerating and Sustaining our Agriculture）」をテーマとした発足式典では、代表者が連合体の趣旨を説明し、ロードマップ策定のプロセスを提案。SAA の環境再生型農業における現場経験には、多くの関心が寄せられました。また、発足の狙いについて紹介した論説がエチオピアの週間ビジネス誌「Capital」に掲載されるなど、多くのメディアに取り上げられ、注目を集めました。